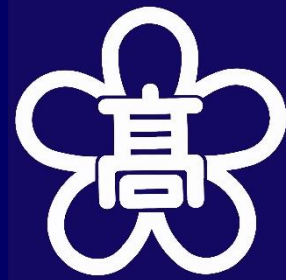


# 2020読書教育重点校 活動報告



## 熊本県立第一高等学校



第一高校の図書館は、校舎から離れた場所にあり、忙しい生徒たちにとってなかなか足の向く場所ではありません。そこで、図書館では、各教科や、各部・各学年など連携し、読書を通して興味関心を引き出す取り組みを行っています。

まずは、放課後のDタイム中(自学時間)にも、貸出カード等を準備することで司書不在中でも貸出を可能にしています。

また、外部講師による講演会の会場としても利用されています。その他、授業での利用や係の集まり等にも積極的に利用を促し、生徒たちに「図書館という場所」を知ってもらう足掛かりとしています。

本校で特に力を入れているのが、新書(小説は含まない)を読むための手立てです。

進路指導部や国語科、各学年と連携して、いろいろな場面で生徒たちが新書に触れる機会を作っています。これらの取り組みを始めてから新書の貸出が増えています。

高校一年生から新書に早速親しんでもらうため、図書館ではあまり難しくなく生徒が興味を持ちやすい新書も揃えています。今回いただいた図書カードでもたくさんの新書を準備することができました。

### ◆学校での取り組み例◆

- ・国語科での新書レビュー作成
- ・総合的な探究の時間での新書読み
- ・図書館での新書福袋作製 等

国語科では、新書を読んでレビューを書き、そのレビューをみんなで発表しあうことで、いろいろな新書について知る取り組みを行っています。

また、総合的な探究の時間でも、学習に入る前に関連する新書を読むことで、課題を具体化し、より深い理解と関心を引き出しています。

今年度の1年生の総合的な探究の時間の授業では、担当教諭と司書が協力し、新書ビブリオバトルを行いました。

自分が読んだ新書を紹介する取組を、班の発表からクラスでの発表とステップアップする形で行ったところ、思いがけず「面白い」という声が上がリ、急遽クラスのチャンプ本の書評合戦を学年全体で行う運びとなりました。



図書館では、たくさんの新書を揃えるとともに、普段は手に取らないジャンルの新書も読んでもらうために、3冊を1袋に詰めた「新書福袋」も各学期に1回作成しています。

「普段読まない本が入っていて面白い」と生徒にも好評です。

新書を借りることに戸惑う生徒には、「目次を見て、興味のある部分だけ読んでもよい」「途中で面白くなかったら返してもよい」と伝えています。まずは、親しむこと。そして、そのあとに読解力がついていくといいと考えます。



2年生の総合探究の時間では、新書を読み、調べ、まとめたものをポスターセッションとして発表しあいました。

また、英語コースの授業でも、「英語で本の紹介をしよう」という取り組みを行い、図書館に掲示しました。図書館に訪れた生徒も、英語での紹介に興味深そうに読む姿が見られました。



これらの取組を通じて、新書をよく借りていくこと以外にも、図書館で資料を探す、あるいは尋ねるといったことが以前よりも身についたように感じます。また、3年時の小論文対策や、大学の入学前課題図書を選ぶ時に、「難しそう」ではなく「面白いからたくさん読もう」という生徒が増えました。

学習指導要領に「探究」という文言が入りましたが、まさに学校図書館の機能が「探究の方法を学ぶための場所」だと思っています。新書を読みこなす力をつけ、それをもとに新たな知識を得る。情報過多の世界を生きていく生徒たちが、資料・情報を自らの手で取捨選択する力を身につけるために、今後も様々な授業やイベントと連携し、学校図書館として尽力していきます。